

直播栽培で多収となるかんしょ品種系統の開発

技術開発のねらい

かんしょ（サツマイモ）は苗を移植する挿苗栽培が慣行ですが、育苗から採苗・定植までの労働負担が大きく、作業の省力化が課題となっています。ばれいしょ（ジャガイモ）のように種いもを直接、圃場に機械で植え付けることができれば、かんしょでも定植までの作業の省力化が期待できます。

既存のかんしょ品種の多くは直播した種いもが肥大する“親いも肥大”が生じ、商品価値のある子いもが十分に得られません。かんしょで直播栽培を普及させるためには、親いも肥大が小さく、子いもの収量が挿苗栽培と同程度に得られる、直播栽培に適した品種を開発する必要があります。

開発成果の特長：

「コガネセンガン」や「シロユタカ」は南九州での主要なかんしょ品種です。育成した「スズコガネ」や「九州199号」は直播栽培した際に、挿苗栽培の「コガネセンガン」や「シロユタカ」と同程度の収量が得られます（表1）。

「スズコガネ」、「九州199号」ともに、親いも肥大は小さく、かんしょ直播栽培に適します（写真1、2）。

「スズコガネ」はでん粉歩留が比較的高く（表1）、芋焼酎の官能評価も高いことから、焼酎原料用として品種登録出願しました（平成28年9月29日）。でん粉白度が低い（表1）ため、でん粉用には適しません。

「九州199号」は子いものに条溝や裂開が少なく、いもの外観が良いため、加工用に適しています。さらに、肉質や食味などから判定した蒸しいもの総合評価が高いことから、食加工用として有望と見込んでいます。

表1. 「スズコガネ」と「九州199号」の諸特性

栽培型	品種系統	収量 (kg/a)	でん粉歩留 (%)	でん粉白度	いも外観	蒸しいも総合
直播	スズコガネ	430	24.4	80.9	中	中
	九州199号	487	21.6	87.0	やや良	やや上
挿苗	コガネセンガン	456	25.4	85.2	中	やや上
	シロユタカ	443	26.3	86.5	中	中

育成地（宮崎県都城市）での生産力検定試験の結果を記載（2018～2020年の平均）。
直播栽培での収量、いも外観は親いもを含めない子いもの評価。
でん粉歩留はいもに含まれるでん粉の割合。でん粉白度はん粉の白さを表す規格。
いも外観は条溝や裂開の有無から遠観で評価。
蒸しいも総合は肉色、肉質、繊維の多少、香り、食味から総合的に評価。
親いも肥大は小さいほうが直播栽培に適する。



写真1. 「スズコガネ」の地下部



写真2. 「九州199号」の地下部

今後の展開方向・見込まれる波及効果等：

育成した「スズコガネ」を含めて、現時点では直播栽培に適するかんしょ品種は3つです（残りの2つは「タマアカネ」、「ムラサキマサリ」）。「九州199号」をはじめとする有望系統について、直播栽培での生産力や用途適性の評価を実施し、直播栽培に適するかんしょ品種のラインナップを拡充します。品種の選択肢を充実させ、南九州の農業生産法人を対象として、省力的なかんしょ直播栽培体系を広めていきます。

特許・品種・論文等

・品種

境哲文ら（2016）、「スズコガネ」、品種登録出願第31272号

研究担当機関名：（研）農研機構九州沖縄農業研究センター、霧島酒造（株）、
宮崎県総合農業試験場畑作園芸支場、鹿児島県農業開発総合センター大隅支場、

問い合わせ先：（研）農研機構九州沖縄農業研究センター研究推進室
電話 096-242-7530 E-mail q_info@ml.affrc.go.jp

執筆分担（（研）農研機構九州沖縄農業研究センター 境垣内岳雄、甲斐由美、霧島酒造（株） 藤田剛嗣）